

# 「清掃の大義」

はじめに

先日、ある地方都市に伺った際に聞いた話です。床面積の総平米数が4万平方メートルという学校清掃の入札があったそうです。相当大的な物件だと思えますが、その入札金額の平米単価が20円と聞いて驚きました。

その話をしてくれた方は、あまりの安さに入札を断念したそうです。

その話をしてくれた方は、あまりの安さに入札を断念したそうです。

第27回

株式会社 フォンシュレーダージャパン 代表取締役社長 岡本 英男

# 現場必勝セミナー

以上、だれかがその現場を受託し、実際に施工をしていくのだと思つと寒々とした思いがしました。

これをお説みになつておられる方がよくお分かりだと思つたが、床清掃で平米単価が20円だとすると、いくら大規模施設としての量の優位性があるとしても、通常考えられるきちんとした床清掃ができないと思われからです。

すべての床を除塵してから洗浄、ワックスを行うとすると、ワックス代が出ないくらい単価の厳しい現場だと思われまふ。にもかかわらず、20円から2割を引いた16円で請ける下請業者がいるといふ事から驚きです。

その仕事を請けてやっつていく業者はどのように対処するのでしょうか。

ある人が教えてくれましたが「強弱をつける」ということだそう

です。詳しく聞くと「清掃する箇所と省く箇所を設け、やる、やらな

いの強弱をつけてこないでいく」のだそうです。唾然とするような答えでした。

もしもその現場の仕様内容に「洗浄してワックスを3枚塗る」という項目があったとしたらどうでしょう。

明確な契約違反であり、詐欺行為となるのではないのでしょうか。

## 入札制度の功罪

大規模な現場においては入札制度がありまふ。この制度は発注者(発注行政官庁、地方公共団体、各種法人・団

体)が発注する調達物について契約希望者に応札させ、調達先を選定する手続きのことをいふ。

入札による調達物の発注金額は、全国で年間約20兆円にものぼると言われており、一大市場を形成していまふ。清掃、ビルメンテナンスの現場でもこの制度で仕事の受発注がなされることも多くあります。

入札を行う側のメリットは、より低価格で仕事を出せることによる経費削減が挙げられます。受託する側のメリットとしては、世

に知られた物件を担当しているという社会的ステータスが得られるので、他の物件に営業をかけやすくなるということがあると思いまふ。

一方、入札を行う側のデメリットとしては、競争入札による価格低下が施工品質の劣化を招くということが挙げられます。受託する側のデメリットも利益率の低下に伴うサービスの劣化が挙げられます。現在の入札制度はこうしたデメリットが顕在化し、悪循環に陥っている状況が長らく続いているように思われまふ。

作業に「強弱をつける」という言い方は聞こえはいいですが、要は提示された仕様と異なる劣化したサービスを提供することであり、仕事を出す側も、請ける側も不幸なことになるのではないのでしょうか。

「経費削減」という美名のもと、費用対効果という大切なことが無視されてきました。施工単価だけが独り歩きしてしまい、それに伴う施工内容、施工品質は無視される風潮があ

ります。発注をする側では、少しでも経費が削減されれば大きな実績として評価されるようです。

しかしながら、結果的には建物の維持管理の費用対効果が無視され、手抜き施工がまかり通ることとなり、知らないうちに建物の劣化が進んでしまうことにつながっています。

ある学校のガラス清掃では、職員室のガラスだけをきれいにし、ほかの箇所は省くといったことが常態化し、それを発注担当者が見て見ぬふりをしている、暗黙の了解が取り交わされている物件もあるそうです。日本の経済状況が厳しいことが根底にあるといふ、非常に悲しく嘆かわしい現実と言わざるを得まふ。

最低賃金の上昇

先の話は、入札制度で仕事を発注する側と請ける側の話でしたが、実際に仕事を請けた側とそこに配属された業者の間にも問題が生じています。入札制度の応札価格が下がる一方で、最低賃金は年々上昇を続け、人件

費高騰が清掃、ビルメンテナンス企業の利益率を圧迫することになっていまふ。

最低賃金とは、労働者に支払われる最低賃金の額を定めた法律である「最低賃金法」に基づき、都道府県ごとに制定されるもので、労働者の権益を保護し、適正な賃金を確保するための制度で、2023年度の全国加重平均額は、時給1004円となつていまふ。

ただし都道府県によつてその額は異なり、東京都の場合は時給1113円、北海道の場合は960円などとなつていまふ。この金額をもとに人材募集の広告で応募者を募るのですが、50円の差がついただけで、人が来たり辞めていったりする現象が起つていまふ。

このこともまた、仕事の内容が重視されるのではなく、単に時給が良いか悪いかだけで人材の確保が決まるといふ悪影響を及ぼしていまふ。その結果、高い人件費を払えないことで慢性的な人手不足に陥り、極端な場合、それが原因で仕事を請けられず倒産する企業もあると聞いていまふ。

原点への回帰

現在の日本の入札制度や、清掃、ビルメンテナンス業界における元請け、下請け、孫請けといった階層的な仕事の請け方には、それぞれに長所と短所があり、一朝一夕に変えられるものではないことには承知していまふ。また、労働者の権利を守るために最低賃金法という法律があることも理解できまふ。

しかしながら、激しい入札価格競争の末に、適正価格が破壊され、さらには最低賃金の上昇による人件費高騰が企業の利益率を圧迫する現状では、自ずと施工品質の劣化を招くことになりまふ。その結果、建物の美観や清潔感までが失われていく状況を、建物の所有者が気づくほど荒廃しているところも多いようです。

この問題を解決することが並大抵でないこととお分かりいただけたいと思いまふが、清掃、ビルメンテナンス業界が抱える根本的問題がどこにあるのかを、原点に立ち返つて考えてみるの必要なことではないでしょうか。

業界全体の漂う差別や偏見といった既成概念が打破されない限り、この業界の明日はないように思いまふ。

本来、清掃業、ビルメンテナンス業というのは、環境を整え、美観や安全性、快適性を維持管理していくための大切な仕事であり、社会を底辺から支える重要な役割があります。

あまり表に出てこない地味な仕事ではありまふが、きれいに整った環境が安心・安全に維持されていくことで、そこで生活し、仕事をされる方が清掃、ビルメンテナンスの大義ではないかと思いまふ。このことの意味と価値を社会全般に認知してもらつことが大切ではないでしょうか。

そのためのさまざまな方策を業界内でも取り組んでおられます。全国ビルメンテナンス協会の「ビルクリーンク技術士資格検定」、全国ハウスクリーニング協会の「ハウスク

リニング技術士資格検定」といった国家資格の取得は、非常に大切な歩みであると思いまふ。資格を取得し、技能を身につけ、各自がプロとしての自覚を持つことが、業界変革のきっかけになることは間違いありません。

そのための人材を育てる総合的な教育システムの構築が、問題解決の糸口となるのではないかとと思われまふ。

清掃の大義というところについて、私見ではありますが説明してまいりました。施工の受発注の場や現場での施工を展開していくにあたり、参考としていただければ幸いです。

まとめ

問題解決の糸口

業界全体に漂う差別や偏見といった既成概念が打破されない限り、この業界の明日はないように思いまふ。

本来、清掃業、ビルメンテナンス業というのは、環境を整え、美観や安全性、快適性を維持管理していくための大切な仕事であり、社会を底辺から支える重要な役割があります。

あまり表に出てこない地味な仕事ではありまふが、きれいに整った環境が安心・安全に維持されていくことで、そこで生活し、仕事をされる方が清掃、ビルメンテナンスの大義ではないかと思いまふ。このことの意味と価値を社会全般に認知してもらつことが大切ではないでしょうか。

そのためのさまざまな方策を業界内でも取り組んでおられます。全国ビルメンテナンス協会の「ビルクリーンク技術士資格検定」、全国ハウスクリーニング協会の「ハウスク

リニング技術士資格検定」といった国家資格の取得は、非常に大切な歩みであると思いまふ。資格を取得し、技能を身につけ、各自がプロとしての自覚を持つことが、業界変革のきっかけになることは間違いありません。

そのための人材を育てる総合的な教育システムの構築が、問題解決の糸口となるのではないかとと思われまふ。

清掃の大義というところについて、私見ではありますが説明してまいりました。施工の受発注の場や現場での施工を展開していくにあたり、参考としていただければ幸いです。

業界全体の漂う差別や偏見といった既成概念が打破されない限り、この業界の明日はないように思いまふ。

本来、清掃業、ビルメンテナンス業というのは、環境を整え、美観や安全性、快適性を維持管理していくための大切な仕事であり、社会を底辺から支える重要な役割があります。

あまり表に出てこない地味な仕事ではありまふが、きれいに整った環境が安心・安全に維持されていくことで、そこで生活し、仕事をされる方が清掃、ビルメンテナンスの大義ではないかと思いまふ。このことの意味と価値を社会全般に認知してもらつことが大切ではないでしょうか。

そのためのさまざまな方策を業界内でも取り組んでおられます。全国ビルメンテナンス協会の「ビルクリーンク技術士資格検定」、全国ハウスクリーニング協会の「ハウスク

リニング技術士資格検定」といった国家資格の取得は、非常に大切な歩みであると思いまふ。資格を取得し、技能を身につけ、各自がプロとしての自覚を持つことが、業界変革のきっかけになることは間違いありません。

そのための人材を育てる総合的な教育システムの構築が、問題解決の糸口となるのではないかとと思われまふ。

清掃の大義というところについて、私見ではありますが説明してまいりました。施工の受発注の場や現場での施工を展開していくにあたり、参考としていただければ幸いです。

まとめ

業界全体の漂う差別や偏見といった既成概念が打破されない限り、この業界の明日はないように思いまふ。

本来、清掃業、ビルメンテナンス業というのは、環境を整え、美観や安全性、快適性を維持管理していくための大切な仕事であり、社会を底辺から支える重要な役割があります。

あまり表に出てこない地味な仕事ではありまふが、きれいに整った環境が安心・安全に維持されていくことで、そこで生活し、仕事をされる方が清掃、ビルメンテナンスの大義ではないかと思いまふ。このことの意味と価値を社会全般に認知してもらつことが大切ではないでしょうか。

そのためのさまざまな方策を業界内でも取り組んでおられます。全国ビルメンテナンス協会の「ビルクリーンク技術士資格検定」、全国ハウスクリーニング協会の「ハウスク

リニング技術士資格検定」といった国家資格の取得は、非常に大切な歩みであると思いまふ。資格を取得し、技能を身につけ、各自がプロとしての自覚を持つことが、業界変革のきっかけになることは間違いありません。

そのための人材を育てる総合的な教育システムの構築が、問題解決の糸口となるのではないかとと思われまふ。

清掃の大義というところについて、私見ではありますが説明してまいりました。施工の受発注の場や現場での施工を展開していくにあたり、参考としていただければ幸いです。

まとめ



【岡本英男氏経歴】  
●岡山県岡山市出身  
●中央大学理工学部卒  
●(公社)全国ハウスクリーニング協会理事  
●建築物環境衛生管理技術者